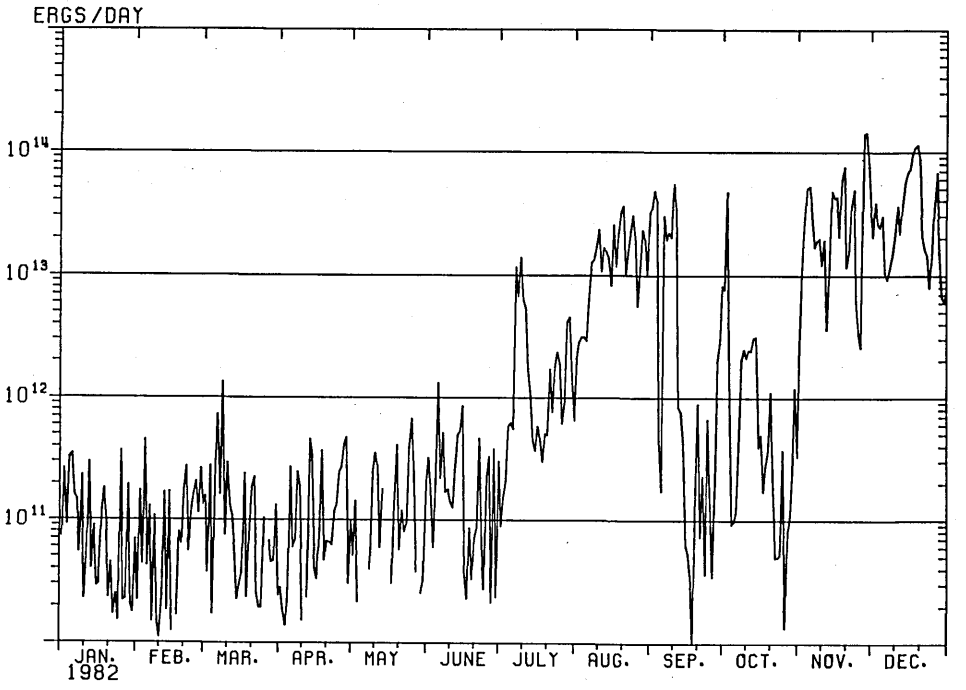
阿蘇山1982年の火山性微動活動*

京都大学理学部火山研究施設

阿蘇中岳第1火口は1979年6月～1980年1月にかけて，活発なストロンボリ式活動を続けていた。1980年2月以降，この活動は休止し，中岳第1火口底には湯だまりが出現し，現在（1983年4月）もこの状態が続いている。

阿蘇中岳の活動レベルを知るための指標としては，この火山に発生する火山性微動の振幅（エネルギー）の変化の消長を表示することが有効である。この目的のために，火山研究施設では，火山性微動エネルギー積算装置を用い連続観測を行っている。[1)]

1982年7月までは，火山性微動の放出エネルギーは非常に低レベルであったが，7月以降，微動の放出エネルギーが増大，減少する変化が見出され，特に11月になって，増大の傾向をみせた。Fig.1に1982年1年間の微動エネルギーの1日当りの変化を示しておく。1982年7月までは10^{11} ergの低レ

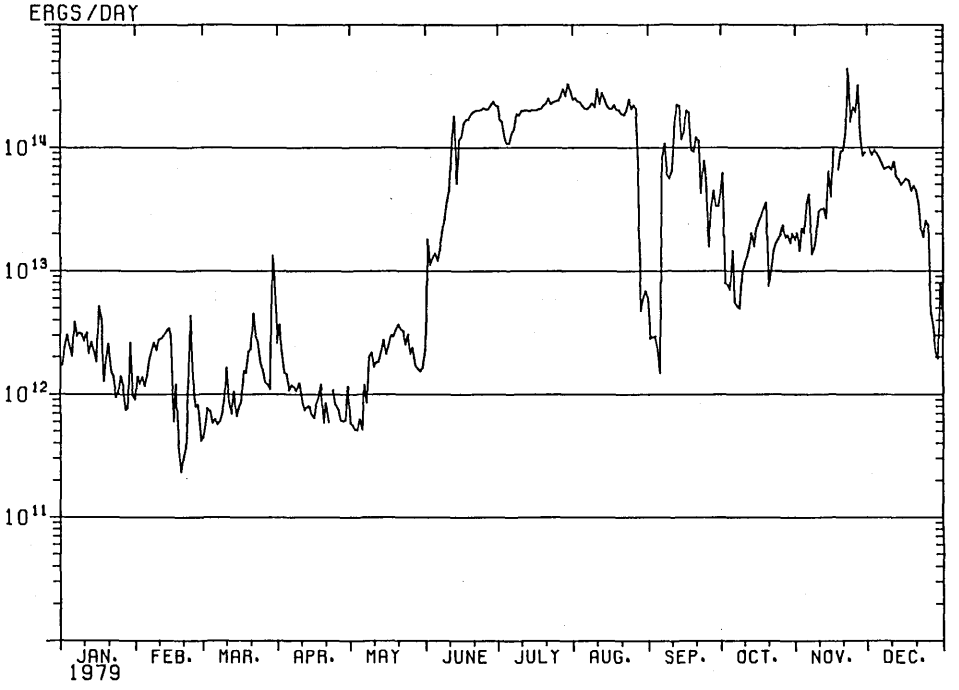


第1図　1981年1月～12月間の阿蘇火山における火山性微動エネルギーの変化

Fig. 1　Variation of energy of volcanic micro tremors at Aso Volcano, January～December 1981.

* Received Apr. 11, 1983

ベルで経過したが，8月以降は一時期 10^{13} erg のレベルに達する状態も出現した。11月，12月には 10^{13} erg から 10^{14} erg のレベルに一時到達し，微動活動はやや活発化の傾向をみせた。この間火口底の湯だまりでは，土砂噴出などが発生していた模様である（天候不良・ガス充満などのため，未確認）。



第2図　1979年1月～12月間の阿蘇火山における火山性微動エネルギーの変化

Fig. 2　Variation of energy of volcanic micro tremors at Aso Volcano, January～December 1979.

しかし，1982年11月以降の微動活動のレベルも，1979年6月以降の噴火時期の 10^{14} erg を越えるレベルと比較すると放出エネルギーは1～1.5桁小さい（Fig. 2）。したがって，阿蘇中岳の火山活動は，まだ本格化したとは言えない。

参　考　文　献

1）須藤靖明（1978）：火山性微動の消長，阿蘇火山の集中総合観測（第1回）報告，1～3.